

WakU²中部支部

人とくるまのテクノロジー展名古屋 中部支部企画

2022.6.29 Wed - 7.5 Tue



THEME 講演会「自動運転」、研究発表会

中部支部では「人とくるまのテクノロジー展名古屋」において、2022年度は「自動運転」をテーマにした企画展示と併せ、講演会も「自動運転」をテーマとしました。「自動運転」は、未来の車の話ではありません。身近なところまで来ているんです。そんな気持ちで、3人の講師の方にご講演いただきました。交通安全環境研究所 河合様には、交通安全を求めるが故の自動運転であり、タイトル通り、まさにその「現状と課題」についてご講演いただきました。日野自動車 小林様からは、隊列走行などの実証実験で研究の進んでいる商用車分野において、今後の展望、課題をご講演いただきました。そして、BOLDLY 中島様から、茨城県境町において公共交通として自動運転バスの運行を試行的に開始している内容と新たな公共交通の提案としてご講演いただきました。トラック・バスメーカーではなく、ソフトウェア会社様によるツールの活用事例として非常に興味深いご講演でした。

また、自動車技術会中部支部では当イベントの一つとして、中部支部の若手技術者から発表者を募集し研究発表会を開催しています。若手技術者が春季・秋季大会へ踏み出す「はじめの一步」としての活用や、新技術を支える「縁の下の基礎技術」の紹介などにも焦点を当て、発表案件を募集し開催しています。2022年度は2021年度に続き、講演会と同様に新型コロナ感染対策のため、実開催することができずオンライン開催となりました。しかし、会場では発表者の皆様に少しでも実際の発表の雰囲気を感じていただくため、ブロック分けしたほかの発表者の皆様と自技会スタッフに聴講いただきました。また、発表者の方がカメラに向かって発表できるようにモニター画面の後方に撮影用のカメラが設置された装置（プロンプター）を使用したため、臨場感のある視聴が可能となり、聴講者の方々には大変好評でした。

参加者の声

講演会「自動運転」

演目 自動運転の現状と課題～自動運転車は特別なクルマなのか？～



人の運転でも、最も重要な認知（検知・認識）の部分をどこまで進化・深化させられるかが、むずかしいとよくわかりました。

聴講の期間中にKDDIの通信障害が発生し、インフラも含めた安全の確保について考えさせられました。

自動運転の動向を知るために参考になる内容でした。

演目 商用車の自動運転技術について

輸送に関する環境を向上させるためには、早急な技術確立と法的整備が重要と感じました。

ADASと合わせて電動化もセットでの普及・専用レーンの整備を実現させる必要があると感じました。

事例動画がありわかりやすかったです。

商用車での報告をほかであまり見なかったのが非常に新鮮でした。

まだまだ実用化には障壁が多そうですが、商用車での自動運転が少しずつ実現に近づこうとしているのがよくわかりました。

特に決められたエリアの自動運転は実験でなく、実用化するべきだと思います。

演目 公共交通としての自動運転バスの可能性



自動運転バスの例を紹介いただき、知らないことだったので興味深かった。事業化にあたり、運賃だけでは成り立たないとのことで、運賃以外で収益性を確保することは難しい課題だと思いました。

非常に良い取り組みだと思いました。自動運転により、人的バラツキが抑制され、均一な安全性が保たれるし、それに対する低速走行などの制約も公共だからこそ受容性があると思います。

近い将来、地方都市で役に立つ取り組みだと思いました。

研究発表会

プロンプターは助かった。事前にアナウンスがあればよかった。

面着で社外で発表できる機会が少ないので、貴重な機会でした。同年代の発表に刺激を受けました。

公開期間が2日間は短すぎ。

自技会の大会にはないような発表があり、興味深い。

